

登録者特典

# 海外OAジャーナル早見表と 論文の探し方

ー 無料で読める英語圏の日本研究ガイド ー

海外の大学では、日本の歴史も、宗教も、アニメも、和食も、真剣な研究対象になっています。

その成果の多くは「オープンアクセス(OA)」の論文として、

誰でも・無料で・自由に、全文を読むことができます。

この小冊子は、その入口までの最短ルートをまとめたものです。

この冊子でできるようになること

1. 日本を扱う海外の学術誌のうち、無料で読める9誌がわかる(3ページ)
2. テーマを決めて、自力で無料論文を探せるようになる(4ページ)
3. 分野の定番となっている有料の主要誌がわかる(5ページ)
4. 「どこまで利用してよいか」をライセンス表記から判断できる(6ページ)

発行: [ブログ名]([URL])

掲載情報は2026年7月に各公式サイトで確認したものです。各誌・各サービスの方針や料金は変わることがあるため、利用時はリンク先で最新の内容をご確認ください。

## はじめに ― 学術誌には3つの型がある

英語圏には「日本研究(Japanese Studies)」という学問分野があり、歴史・文学・宗教・社会・ポップカルチャーまで、日本に関するあらゆる主題が専門の学術誌で論じられています。その学術誌は、読者から見ると次の3つの型に分かれます。この区別を知っているだけで、探す時間がまったく違ってきます。

| 型       | しくみ                                      | 読者にとっての意味                             |
|---------|------------------------------------------|---------------------------------------|
| 完全OA誌   | 掲載論文のすべてを無料公開する。運営費は大学・研究機関や著者側の負担で賄われる  | 誌名さえ知っていれば、全部読める。まずここから(3ページの9誌)      |
| ハイブリッド誌 | 購読誌だが、著者が費用を払った論文だけ無料公開される。無料と有料が1冊に混在する | 論文単位で「Open Access」表示を確認する。無料分だけ拾えばよい  |
| 購読誌     | 大学図書館などの購読契約が前提。個人が読むには購入や図書館の利用が必要      | 分野の定番誌の名前を知っておくと、図書館などで探すときに役立つ(5ページ) |

もう1つだけ、基本の道具を紹介します。

DOI(ディー・オー・アイ): 論文1本ごとに付く恒久的な番号です(例: 10.1234/abcd)。「<https://doi.org/>」の後ろにこの番号を付けると、掲載先が変わっても必ず論文のページにたどり着けます。本や記事で論文を見かけたら、まずDOIを控えるのが確実です。

## 1. 無料で読める9誌 — 海外OAジャーナル早見表

いずれも査読付きの学術誌で、掲載論文の全文を無料で公開しています。各誌のサイトで「samurai」「Meiji」「shrine」「anime」など、気になる語をそのまま検索してみてください。

| 分野             | 誌名                                    | 発行元                   | 特徴                                                                      |
|----------------|---------------------------------------|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------|
| 総合<br>(歴史に強い)  | Japan Review                          | 国際日本文化研究センター(日文研・京都)  | 日本研究の総合誌。歴史・文化の特集が充実し、2026年には「Global Samurai」特集号を刊行。年1回。全文無料で、JSTORにも収録 |
| 総合<br>(近現代・時事) | The Asia-Pacific Journal: Japan Focus | 独立系の電子ジャーナル(米)        | 近現代史・政治・社会。戦争の記憶、沖縄、原発など硬派な主題をウェブで無料公開                                  |
| 総合<br>(若手・入門)  | New Voices in Japanese Studies        | 国際交流基金シドニー(豪)         | オーストラリア・ニュージーランドの若手研究者の論文集。平易で読みやすく、最初の1本に向く                            |
| 宗教             | Japanese Journal of Religious Studies | 南山宗教文化研究所(名古屋)        | 日本宗教研究の中心誌。仏教・神道・新宗教・巡礼。1960年代からの蓄積が全文無料(CC BY-NC)                      |
| 宗教             | Religions                             | MDPI(スイス)             | 宗教学全般。日本仏教や巡礼の特集号が多い。CC BYが中心                                           |
| 人文学全般          | Humanities                            | MDPI(スイス)             | 文学・映画・思想など人文学全般。日本関連の特集号が組まれる。CC BYが中心                                  |
| 美学・文化          | Journal of Aesthetics & Culture       | Taylor & Francis(英)   | 美学・文化研究のOA誌。映画や大衆文化の論文も載る。CC BYが中心                                      |
| ポップカルチャー       | Journal of Anime and Manga Studies    | イリノイ大学図書館(米)          | アニメ・マンガ・コスプレ・ファン文化の専門誌。CC BY-NCが中心                                      |
| ポップカルチャー       | Manga Studies                         | 京都精華大学<br>国際マンガ研究センター | 2025年6月創刊のマンガ研究専門誌。大学リポジトリで無料公開。国際的な視点のマンガ論                             |

※ライセンス(CC BYなど)は誌としての傾向です。利用条件は論文1本ごとに異なるため、必ず各論文のページで表記を確認してください(見分け方は6ページ)。誌名で検索すれば公式サイトはすぐ見つかります。

## 2. OA論文の探し方 ― テーマから3ステップ+自動化

### STEP 1|DOAJ(doaj.org)― 無料の誌だけを検索する

DOAJは世界のオープンアクセス誌だけを収録した公式ディレクトリです。検索窓に「Japan+テーマ」を英語で入れます(例: Meiji Restoration / Tokugawa merchants / washoku heritage)。ここでヒットした論文は、すべて無料で読めます。

### STEP 2|Google Scholar と OpenAlex ― 有料誌も含めて網羅する

Google Scholar(scholar.google.com)で同じ語を検索し、結果の右側に[PDF]リンクが出ているものを拾います。より本格的に調べるならOpenAlex(openalex.org)で検索し、絞り込みで「Open Access」を選ぶと、無料論文だけを一覧にできます。

### STEP 3|Unpaywall ― 「この論文、無料版はある？」を1クリックで確認

読みたい論文が有料でも、著者が大学リポジトリなどに正規の無料版を置いている場合があります。ブラウザ拡張機能のUnpaywall(unpaywall.org)を入れておくと、論文ページを開くだけで、無料版の有無を緑の鍵アイコンで表示してくれます。

### 仕上げ|Google Scholarアラート ― 探す作業を自動化する

Google Scholarで検索したあと、画面左の「アラートを作成」を押してメールアドレスを登録すると、同じ条件の新着論文が出るたびに通知が届きます。関心のあるテーマを2〜3本登録しておくと、以後は新しい研究の情報が自動で届くようになります。

#### 検索語のコツ

- ・英語で、まず2語から。例: Meiji Restoration memory(明治維新の記憶) / samurai image film(映画の中の侍像) / postwar Japan occupation(占領期) / Edo period travel(江戸の旅) / anime tourism(聖地巡礼)
- ・作品名・人名は英語表記で(徳川家康→Tokugawa Iyasu、進撃の巨人→Attack on Titan)
- ・新しい研究に絞りたいときは、検索オプションで「2020年以降」などと期間を指定する
- ・要旨(Abstract)を機械翻訳で読み、面白そうなら本文に進む。この順番で十分です

### 3. 知っておきたい有料の主要誌

日本研究の中核誌には購読制のものもあります。以下の6誌はいずれも有料ですが、分野の定番として、誌名だけでも知っておくと、書店や図書館、ニュースで見かけたときの手がかりになります。

| 誌名                                  | 発行元・分野                                                          |
|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| Monumenta Nipponica【有料】             | 上智大学(東京)。1938年創刊で、英語圏の日本研究誌では最古参の一つ。前近代～近代の歴史・文学・宗教。史料の翻訳と書評が充実 |
| The Journal of Japanese Studies【有料】 | 米・日本研究学会(Society for Japanese Studies)。歴史から現代政治まで扱う代表的な総合誌      |
| Japan Forum【有料・一部無料】                | 英国日本研究協会(BAJS)の学会誌。Routledge刊。人文・社会科学全般                         |
| Japanese Studies【有料・一部無料】           | 豪州の日本研究学会(JSAA)の学会誌。Routledge刊                                  |
| The Journal of Asian Studies【有料】    | アジア研究学会(AAS)の学会誌。日本を含むアジア研究全般の老舗                                |
| Mechademia: Second Arc【有料】          | ミネソタ大学出版局(米)。日本ポップカルチャー研究の中核誌。2026年夏にはスタジオジブリ特集号を予定             |

これらの有料誌も、公共図書館や大学図書館を通じた取り寄せ、学術誌アーカイブJSTORの無料閲覧枠(刊行から年数のたった号が対象になる場合があります)などで、個人でも読めることがあります。具体的な入手方法は、メインサイトの記事で順次ご案内していく予定です。

## 4. 「無料で読める・使える」の見分け方

最後に、論文ページで確認すべき2点を整理します。

### チェック1|全文が読めるか

「Full Text」「Download PDF」を実際にクリックし、最後のページまで表示されることを確かめます。要旨(Abstract)だけ無料で、本文は購入やログインを求められる論文も多いため、PDFが開くところまで確認して初めて「無料で読める」と言えます。

### チェック2|ライセンス表記(CCマーク)

| 表記       | 意味                       | 読者としてできること                   |
|----------|--------------------------|------------------------------|
| CC BY    | 出典を表示すれば、翻訳・転載・再利用が広く可能  | 読む・保存・共有・出典付きの紹介、いずれも安心してできる |
| CC BY-NC | 非営利目的に限り再利用できる           | 読む・保存・共有は問題ない。営利利用だけ不可       |
| CC BY-ND | 改変(翻訳を含む)は不可。原文のままの共有は可能 | 読む・そのまま共有するのは問題ない            |
| 表記なし     | 無料で読めても、再利用の条件は不明        | 読むのは自由。転載や翻訳の公開は控える          |

この2点を習慣にすれば、「読んでよいか」「紹介してよいか」で迷うことはほとんどなくなります。研究者が無償で公開した仕事には、出典表示という最低限の礼儀で応える。それが、オープンアクセスという仕組みを支えている約束事です。

#### 3分でできる練習

- (1) DOAJで「samurai」を検索し、無料で読める論文を1本開く
  - (2) その論文のDOIとライセンス表記を確認する
  - (3) Google Scholarで同じテーマのアラートを1本作成する
- ここまでできれば、この冊子の内容は身についています。

## おわりに ― 探す時間を節約する場合は、こちらにお任せください

本冊子の方法を使えば、海外の日本研究には自力でたどり着けます。とはいえ、毎週それを続ける時間は、誰にでもあるわけではありません。

当サイトでは、ここで紹介した方法で見つけた論文の中から「日本で暮らす読者が読んで面白い1～2本」を毎週選び、日本語の解説付きで紹介しています。全記事に、無料で原文にたどり着けるリンクを添え、無料で全文が読めることを確認した論文だけを扱っています。

ウェブサイト(記事の本体はこちら): [【URL】](#)

メールでのお知らせ: ご登録いただいた方には、準備が整い次第、週1回のレターの配信を始めます(この特典を受け取った時点で、登録は完了しています)

note(ダイジェスト版): [【noteのURL】](#) ― 週ごとのまとめと制作の裏話

### 本冊子の使い方について

本冊子は、内容を変えず、出典として上記のサイト名とURLを添えていただける場合に限り、転載・配布を歓迎します(例: 読書会・ゼミ・図書館での配布)。

制作ノート: 掲載した各誌の刊行状況・公開方針・料金は、2026年7月時点で各公式サイト(日文研、南山宗教文化研究所、上智大学、JSTOR、国立国会図書館ほか)にて確認しました。これらは今後変わる可能性があります。誤りに気づかれた場合は、上記サイトの問い合わせ先までお知らせいただけると助かります。